

# オリンピックを題材とする体育理論の授業

## — アマチュアリズムとプロフェッショナリズムを中心に —

保健体育科 中塚 義実

表題は、2021年12月4日の「筑波大学附属高等学校 第61回高等学校教育研究大会」における保健体育科の公開授業テーマである。オンラインでの開催となったことから、参加者は事前収録された動画をあらかじめ視聴し、研究大会当日は授業者による説明と意見交換で進められた。

本報告は、当日の配布資料（一部補足・修正）と教科分科会の意見交換をまとめたものである。緊急事態宣言下で開催されたTOKYO 2020の年の記録であり、各方面でご活用いただきたい。

### I. はじめに

#### 1) 体育理論の位置づけ

体育理論は、科目「体育」の必修領域として学習指導要領に示されている。しかし多くの学校においてその扱いは長らく低調であった。「体育の総授業時数の5～10%程度行う」とされていた体育理論は、平成21(2009)年度改訂で「各学年6単位時間をあてる」と記され、学校現場への導入は待ったなしの状況となった。さまざまな研究会で体育理論が取り上げられ<sup>注1)</sup>、オリンピック・パラリンピックを題材とするスポーツの文化的側面の学習が話題に上ることも増えてきた。

研究校である本校は、半世紀以上前から通年の体育理論に取り組んできた。その試みは、研究大会教科分科会で何度か取り上げた。

＜筑波大学附属高校研究大会 保健体育科分科会テーマ【保健・体育理論関係】＞

回数	期日	公開授業(担当者)	分科会テーマ
第39回	1989.12.9	1年男子柔道(鮫島)	「体育理論」をどう扱うか—本校における実践報告(中塚)
第40回	1990.12.8	1年女子ダンス(井上)	「体育理論・保健」をどう扱うか(2)—他校との比較及び新指導要領への対応
第41回	1991.12.7	2年女子バレー(藤生)	「体育理論・保健」をどう扱うか(3)—生徒のレポート作成から
第44回	1994.12.3	1年男子柔道(鮫島)	体育理論・保健をどう扱うか(4)—新指導要領への対応
第52回	2002.12.7	2年体育理論(中塚)	総合的な学習としての体育・スポーツの可能性を探る —FIFAワールドカップを題材とした体育理論の実践を中心に(中塚)
第61回	2011.12.3	1年保健(藤生) —食生活を考える	「体育理論」の授業(鮫島)
第67回	2017.12.9	1年保健(征矢) —性教育を「倫理」とともに考える	社会の変化と保健体育科の使命 I —保健の学習内容を考える(貴志)

保健2単位のうち1単位を体育理論に充て、すべての生徒が1、2年次のいずれかで学習する。5名の保健科教師のうち中塚と鮫島が担当し、教科書の「体育編」を網羅しつつ、運動・栄養・休養や応急処置など「保健編」のなかみを加えながら進めている。

オリンピックを題材とする授業は体育理論の中で、毎年取り組まれている。TOKYO2020へ向けて特別に計画されたものではない。

#### 2) 筆者の取り組み

筑波大学附属高校保健体育科教師として35年が経過しようとしている。体育実技ではサッカーを中心に様々な種目を担当し、座学では体育理論を受け持ってきた。1987（昭和62）年の着任以来、本校の研究大会での公開授業は9回目、体育理論は今回が2度目である<sup>注2)</sup>。

前は2002年度、テーマは「FIFA ワールドカップを題材とする体育理論の授業－総合的な学習の時間を視野に入れて」であった。総合的な学習の時間をどのように構成するか、FIFA ワールドカップというメガイベントを体育理論の教材としていかに活用するか、生徒同士の意見交換を促すためにどのような工夫をするかなど、筆者にとっても大きな挑戦であった。2002年度のみの実践ではあったが、その後の体育理論の授業づくりに反映させている。

2017年度より、筑波大学主催の教員免許状更新講習の講師として「オリンピックを題材とする体育理論の授業－文化としてのスポーツ学習を中心に」を担当している。筆者の実践を紹介し、約20名の受講者に中高の体育理論の指導案を作成してもらった講座である。「アマチュアリズムとプロフェッショナリズム」の授業も、そこで簡単に紹介する。オリンピックにおけるプロアマ問題を学んだうえで、最終的には生徒たちに、「あなたは将来、どの道を目指すのか」「その道のプロとは何か」を考えさせる授業である。オリンピックを題材とする「キャリア教育」と言ってよい。

体育理論の授業テーマは、このような広がりを持たせられるものである。

### 3) 2021年度の取り組みと公開授業

1年延期となった東京オリンピック・パラリンピックが、異論・反論が渦巻く中、緊急事態宣言下で開催された。自分たちの学校行事や部活動がコロナ禍で中止や延期を余儀なくされた生徒たちは、今夏のできごとをどのように受け止めたのだろうか。そしてこの経験をどのように活かしていくのだろうか。

このようなことを考える材料として、オリンピックやパラリンピックの多様な側面を生徒に伝えなくてはならない。今年度の「オリンピックを題材とする体育理論の授業」は、例年の内容に加え、このような問題意識で組み立てた。

## II. オリンピックを題材とする体育理論の授業－2021年度の計画

### 1. 年間計画の一部見直し

体育理論の授業は、いつもは教室の対面授業であるが、コロナ禍の2020年度は、4～5月の休校期間だけでなく分散登校期間中（6～7月および1～2月中旬）もオンライン授業（動画配信）となった。はじめての教材づくりに手間取ったが、これまでの授業を整理することにもつながった。

2021年度は当初から対面授業であったが、時間は45分に短縮されている。資料1は年度はじめの授業で生徒に配布した年間計画、資料2は6月に配布した前期課題である。「オリンピックを題材とする授業」は11月末に始まり、年度末まで「文化としてのスポーツ」の学習が続く、例年どおりの計画である。後期の課題はグループレポートで、発表会で締めくくる予定であった。

それが、いくつかの要因から修正を余儀なくされ、資料3を後期はじめに配布した。まず12月4日の研究大会で公開授業を担当し、「アマチュアリズムとプロフェッショナリズム」を取り上げることになった。そのためいつもより早くから「オリンピックを題材とする授業」に取り掛からねばならない。後期に入って「運動の学習」が一段落ついたところでオリンピックを題材とする授業に入り、「オリンピックの始まりとクーベルタンの思想」を経て「アマチュアリズムとプロフェッショナリズム」の授業につなげる流れを作った。

また、総合的な探求の時間で2年生は年度末にグループレポートをまとめることから、体育理論のグループレポートを同時期に課すのは難しいと判断した。後期レポートのテーマと方法を見直すとともに、授業ごとに課題を出すことにした。授業後にしっかり考えさせ、学習の定着を図るとともに、次の授業

の導入とするものである。「知っているか調査」は、生徒の現状把握とともに、調査の形をとった情報提供であり「反転授業」の試みでもある。次の授業へのモチベーションを高めるねらいもある。

修学旅行準備の都合で11月13日(土)の授業が対面でできなくなった。そこで「スポーツと政治」は音声付きスライドの視聴と資料読み込みのオンライン授業とした。さまざまなタイプの授業をこの単元で実践し、報告することで、研究大会の論点の一つとしたいと考えた。

## 2. 単元計画ー目標・内容・評価

### 1) 学習目標

#### ①オリンピック・パラリンピック競技会の「これまで」と「いま」を知る(知識)

いまを評価しこれからを探るうえで、「なぜ、いま、こうなっているのか」を知ることが重要である。様々な角度から歴史を学ぶことで、「いま」と「これから」を考える材料を得ることができる。

#### ②授業テーマに即して考え、伝え、それを次の学び・行動の契機とする(思考・判断・表現)

「政治」「メディア」などの授業テーマは、今日のオリンピックやパラリンピックがさまざまな分野と深くかかわることから導かれたものである。これらのテーマを自分自身の問題として考え、考えたことを言語化し、クラスメートと交換することで、学びを深めることができる。

オリンピック・パラリンピック競技会は、考え、学ぶべき内容を導くきっかけである。例えば「アマチュアリズムとプロフェッショナリズム」の授業において、学び、考えるべきことは「(自分がなりたい分野の)プロとは何か」であり、考えるきっかけが「スポーツにおけるプロアマ論争」や「オリンピックとアマチュアリズム」であると位置づける。

### 2) 学習内容と進め方

コロナ禍の45分授業は大変厳しいところだが、1回完結型で授業を進めていくことにした。

10月30日から5回シリーズで取り組み一段落。冬休み明けの1月以降はスポーツ心理学のやり残し単元(「メンタルマネジメント」と「集団とリーダーシップ」)を行い、2月下旬から「日本スポーツの発展過程」のところで、ふたたび日本とオリンピック・パラリンピックのことなどに触れていく。

年度末の縮めの授業テーマは「レジャーライフへ向けて」である(資料3参照)。

#### <2021年度 オリンピックを題材とする体育理論の授業>

回数	期日	授業テーマ	主な内容
1	10月30日	オリンピックのはじまりとクーベルタンの思想	古代ギリシアの祭典競技/クーベルタンの思想と功績/近代オリンピックの復興
2	11月6日	アマチュアリズムとプロフェッショナリズム	アマチュアリズムの背景/オリンピックとアマチュアリズム/プロとは何か
3	11月13日	スポーツと政治【動画配信】	オリンピックと政治(ボイコット問題など)/日本と朝鮮半島のサッカー交流史/ナショナルリズムと帰属意識
4	11月27日	スポーツとメディア	スポーツとメディア概論/新聞社と高校野球・プロ野球/テレビの時代/これからのスポーツとメディアをめぐる諸課題
5	12月11日	スポーツと教育	「オリパラ教育」の現状と今後/コロナ禍における学校スポーツ/TOKYO2020討論会
6	2月12日	日本スポーツの発展過程Ⅰ ー東京高師と嘉納治五郎	嘉納治五郎の思想と功績(日本とオリンピックの関り)
7	2月19日	日本スポーツの発展過程Ⅱ ーこれからのスポーツ環境	学校~企業~地域におけるスポーツクラブの育成へ

### 3) 評価

資料3にあるとおり、グーグルフォームを用いて授業ごとに提出課題を設け、平常点の補足とする。1月22日提出の課題レポートの評価を加え、通年での評価・評定をする。筆記試験は行わない。

授業ごとの提出課題には「知っているか調査」が含まれるが、これはクラスの傾向を把握することと、調査を通して情報提供することがねらいである。いまの時代、知らないことはスマホ等ですぐに調べられる。「いま知っているかどうか」はさほど重要ではない。断片的な「知識」よりも、大枠でものごとをとらえる視野を持たせたい。重要なのは、得た知識を踏まえていかに考え、次の行動につなげるかである。「思考・判断・表現」については授業中の発言やふるまい、授業ごとの課題で評価する。「学びに向かう力」も、授業中の観察や課題の提出状況等で評価する。

「主体的・対話的で深い学び」はもちろん大切だが、伝えるべきことはしっかり伝える必要がある。話し合いのための話し合いは不要。生徒の意見交換の場面と教師の講義の場面がともにあるような授業を目指している。話し合いの場面をもっととりたいが、45分授業では難しい。よって授業後に「学んだこと、感じたこと、考えたこと」を書きとめる（言語化する）ことが重要であると考え、授業ごとの提出課題を設けた。

注1) 横浜市教育委員会主催の研究会「横浜市高等学校保健体育研究会・理論講習会」において、筆者は2014年6月26日、「体育理論の授業—筑波大学附属高校での実践報告」と題する講演をさせていただいた。体育理論の授業への関心は、オリンピック教育のニーズとも相まって、このころから各種研究会で取り上げられ、「各学年で6時間ずつ行う」ことが徐々に定着してきたと感じる。それでもまだ多くの現場で「雨降り体育理論」の域を出ないのが現状である。

注2) 過去8回の公開授業は次のとおりである。

- 1) 1988年12月10日 3年女子サッカー … 「自由と責任」を学ぶ
- 2) 1993年12月4日 1年男子サッカー … 全33時間で「する」「みる」スポーツ教育
- 3) 1997年12月6日 1年女子サッカー … 全22時間で「する」「みる」スポーツ教育
- 4) 2002年12月7日 2年体育理論 … FIFAワールドカップを題材とした総合学習
- 5) 2003年12月6日 3年男女セパタクロ … 男女共習の選択実技
- 6) 2008年12月6日 1年女子サッカー … 約15時間のサッカー単元の「導入」と「まとめ」
- 7) 2013年12月7日 2年男子ラグビー … 体育実技「ラグビー」の可能性と課題
- 8) 2018年12月1日 1年男子サッカー … 「自由と責任」を学ぶ（副案「サッカーの歴史」を学ぶ）

コロナ禍で初のオンライン開催となった2020年12月5日の研究大会では、公開授業の代わりに、全体会で「生徒の実態調査から＜朝体操＞へ」、保体科分科会で「コロナ禍でみえる保健体育科のすがた—“いのち”にかかわる教科として」を発表した。

また、2005年度に始まる「筑波大学附属小・中・高合同研究会」での公開授業は次の3回である。

- i) 2006年2月25日（第1回） “体づくり”と“動きづくり”：高1男女トレーニング
- ii) 2012年1月21日（第7回） 器械運動（マット運動）：高1男女マット運動
- iii) 2015年1月24日（第10回） ゴール型「サッカー」：高2男女サッカー

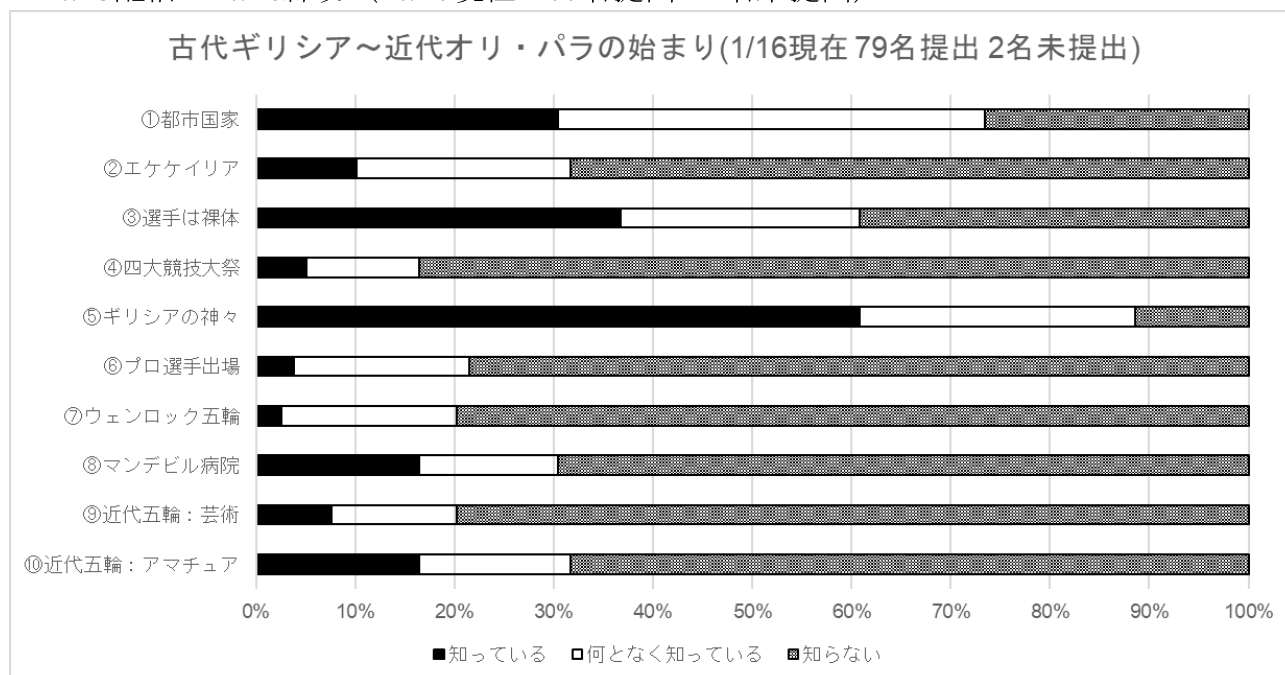
### Ⅲ. 各授業の概要

次ページより、各授業の「略案」と、前時の授業課題にある「知っているか調査」結果を授業ごとに示した。「知っているか調査」の結果は、授業日に生徒に配布したものである。ただしグラフのデータは1月16日のものに差し替えた。

「アマチュアリズムとプロフェッショナリズム」については、公開授業クラスの生徒のコメントも示した（コメント前の数字は出席番号ではなくランダムに振った）。

## < 体育理論 「知っているか調査」 ① >

■10/23配信～10/26締切（10/27現在 77名提出 4名未提出）



- 1) 紀元前8世紀ごろ、ギリシア各地にポリスとよばれる都市国家が成立した。都市国家間の争いが絶えることはなく、アテネとスパルタが特に有力であった。
- 2) 古代オリンピックでは、5日間という祭典の期間を含めて3か月間の「エケケイリア（聖なる休戦）」と呼ばれる休戦期間が設けられていた。
- 3) 古代オリンピックに出場する選手は、裸で競技を行った。
- 4) 古代ギリシアの競技祭は、オリンピアだけでなく、イストモス、ネメア、デルフォイにおいても盛大に開かれ、「四大競技大祭」と呼ばれている。
- 5) ポセイドン、アポロン、ゼウスは、すべてギリシア神話の神々の名である。
- 6) 古代ギリシアの競技大祭には「プロ選手」が出場していた。
- 7) イギリスのマッチウェンロックでは1850年から毎年、運動競技の祭典が開かれていた。1890年にはクーベルタンも招待され、「ウェンロック・オリンピック」を古代オリンピックの継承であると称えた。
- 8) パラリンピックの起源は、1948年にイギリスのストーク・マンデビル病院でロードウィッチ・グットマンが開催した16人の車椅子患者によるアーチェリー大会である。
- 9) 近代オリンピックでは1912年から1948年まで芸術競技が行われていた。
- 10) 近代オリンピックの競技者は、1970年代まで「アマチュア」でなければならなかった。

## 10/30 近代オリンピックのはじまりとクーベルタンの思想

1) ねらい

★以下の「知識」を理解する

- ①古代ギリシアで祭典競技会が開かれていた ⇒ 「聖なる行事」は約 1,200 年続いた！
- ②19 世紀末に近代オリンピックが復興した ⇒ 背景には平和への希求がある！
- ③創始者クーベルタンの思想 ⇒ オリンピズムは“生き方の哲学”である！
- ④創設当初の構想 ⇒ 組織、開催地、開催年、内容、参加資格は「アマチュア」

★当時の人々について想像力を働かせながら考える

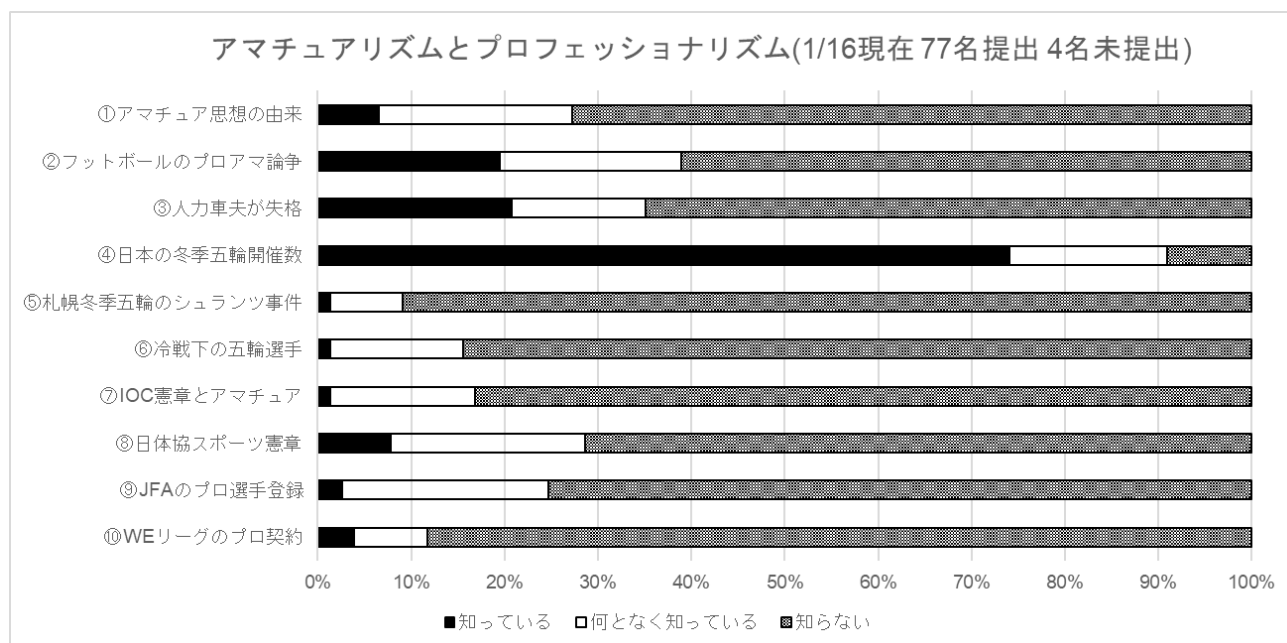
- ①古代ギリシアの人々にとっての祭典競技会
- ②クーベルタンの問題意識

2) 進め方（略案） ※授業映像参照

段階	時間	授業の進め方	留意点
導入	10分	挨拶・点呼 前時の内容確認①週番が答える ②アンケート結果の共有 本単元&本時の内容確認	授業に臨む態勢を整える ・「知っているか調査」結果の共有
展開①	22分	1. 古代ギリシアの祭典競技 発問「古代ギリシア／オリンピア祭についてどのようなことを知っているか」 ・都市国家間の争い⇒地中海世界の繁栄と没落 ・四大競技大祭⇒地方の宗教的行事が拡大した ・専門競技者の存在⇒大会規模の拡大により変質した ・AD393 年を最後に途絶え、記憶のかなたに…	中高の世界史の授業や、どこかで聞いたことがある話を共有する  生徒とやり取りしながら進める  想像力を働かせるよう促す
展開②	13分	2. 近代オリンピックの父・クーベルタン 発問「近代オリンピックの始まりについてどのようなことを知っているか」 ・遺跡発掘による古代ギリシアブーム ・国民国家の成立と平和への希求 ・フランスの教育改革から世界平和の実現へ 3. 近代オリンピックのはじまり ・1896 年にアテネで第 1 回を開催。IOC を組織。 ・スポーツと芸術の競技会。参加資格はアマチュア	資料を読みながら確認する  クーベルタンの立場になって、何を問題意識としたのかを考える。  次回のテーマにつなげる
整理		本時の内容についての感想（数名）	課題レポートに記載

## < 体育理論 「知っているか調査」 ② >

■10/30配信～11/2締切（11/5現在 71名提出 10名未提出）



- 1) アマチュア思想はイギリスで生まれた。産業革命で勃興した労働者階級がスポーツ界に進出して上流階級を脅かすようになり、愛好者を意味する「アマチュア」が参加資格とされるようになった。
- 2) 19世紀後半に英国で「プロアマ論争」が巻き起こった。サッカーは1885年にプロを認め、ラグビーは1895年にユニオンとリーグに分裂した。
- 3) かつて日本では、人力車夫がアマチュア規定違反で失格となったことがある  
【参考：箱根駅伝、前代未聞の“替え玉”事件とは？（Number web 2021.1.1.近藤正高）】
- 4) 日本はこれまで、冬季オリンピックを2度開催している。
- 5) アルペンスキー男子の金メダル最有力候補だったオーストリアのカール・シュランツは、1972年の札幌冬季五輪が開幕する3日前、国際オリンピック委員会（IOC）によって、アマチュア資格違反で「失格」を言い渡された。
- 6) オリンピックのメダル争いは冷戦時代に過熱し、東側は「ステートアマ」、西側は「カンパニーアマ」といわれる「実質のプロ選手（偽アマチュア選手）」が数多く出場していた。
- 7) 1974年のIOC憲章から「アマチュア」の文字はなくなった。
- 8) 日本体育協会（現・日本スポーツ協会）は1986年にアマチュア規定を廃止して「スポーツ憲章」を定めた。これにより各競技団体でプロ選手の登録が認められるようになった。
- 9) 日本サッカー協会では1986年に選手登録規定を改め、「スペシャルライセンス・プレーヤー（プロ選手）」の登録が認められるようになった。
- 10) 2021年9月に開幕した日本女子プロサッカー「WEリーグ」において、各クラブは「プロ選手15名以上」と契約しなければならないが、チーム内にはアマチュア選手もいる。

【補足】プロA契約の基本報酬は年額460万円以上（初めてA契約を結ぶ場合は670万円以下）。プロB契約とプロC契約の基本報酬は年額270万円以上460万円以下と規定されている。最低年俸270万円のラインは、クラブのWEリーグ参入基準だ。基本報酬が同額のプロB契約とプロC契約の違いは、プロB契約は変動報酬を自由に設定できるが（出場給を設定する場合は1試合あたり47620円以下）、プロC契約が設定できる変動報酬は出場給と勝利給のみとなっている。そしてリーグの参入条件として、クラブはプロA契約5名以上、プロB契約とプロC契約は合わせて10名以上と契約しなければならない。つまり、「プロ選手15名以上」との契約が必要である。

## 11/6 アマチュアリズムとプロフェッショナルリズム

1) ねらい

★以下の「知識」を理解する

①アマチュアリズムの背景 ⇒ 階級社会であった英国の状況

②オリンピックへの参加資格としてのアマチュア規定の変遷 ⇒ 社会の変化に伴い変わってきた

③日本でアマチュアリズムが広く浸透した背景 ⇒ 学校教育でスポーツが普及／武士道との一致

★真のプロとは何かについて考える

①スポーツの「プロ」とは何か ⇒ プロアマ問題の背景といまにつながるもの

②各分野における「プロ」とは何か ⇒ 自分自身の進路を考える

2) 進め方 (略案) ※授業映像参照 (事前に視聴しておいてください)

段階	時間	授業の進め方	留意点
導入	8分	挨拶・点呼 前時の内容確認①週番が答える ②アンケート結果の共有 本時の内容確認	授業に臨む態勢を整える ・「知っているか調査」結果の共有 ・近代五輪の参加資格が「アマチュア」であったことを確認する
展開①	12分	発問「なぜ参加資格をアマチュアとしたのか」 発問「スポーツにおけるアマチュアとプロの違いは？」 発問「他の分野でアマチュアとプロはどこが違うのか」 ・芸術の世界は？ (音楽は？ 絵画は？) ・先生の世界は？ (教師は？ 医者は？ 弁護士は？) ・将来なろうとする分野については？	生徒とやり取りしながら進める  近くの生徒同士で意見交換する
展開②	10分  10分  5分	1. アマチュアリズムの背景 ・英国における第一次アマチュアリズム ・産業革命後の民主化されたアマチュアリズム ・大衆化・高度化する中で進行するプロ化  2. 近代オリンピックにおけるアマチュアの定義 ・第1回オリンピックのアマチュア規定 ・休業補償をめぐる ・冷戦下の「偽アマチュアリズム」 ・アマチュア規定の廃止  3. プロとは何か ・プロ化とは「専門職化」である ・Profession と Occupation は異なる 発問「将来どの分野の“プロ”になりたいか」 発問「その分野の“プロ”とはどのような存在か」	資料を読みながら確認する  1932年ロス五輪のプロアマ問題を取り上げる  東側の「ステートアマ」と、西側の「カンパニアマ」を、例を挙げて説明する  佐伯年詩雄著『現代企業スポーツ論』の一説を読む
整理		本時の内容についての感想 (数名)	課題レポートに記載

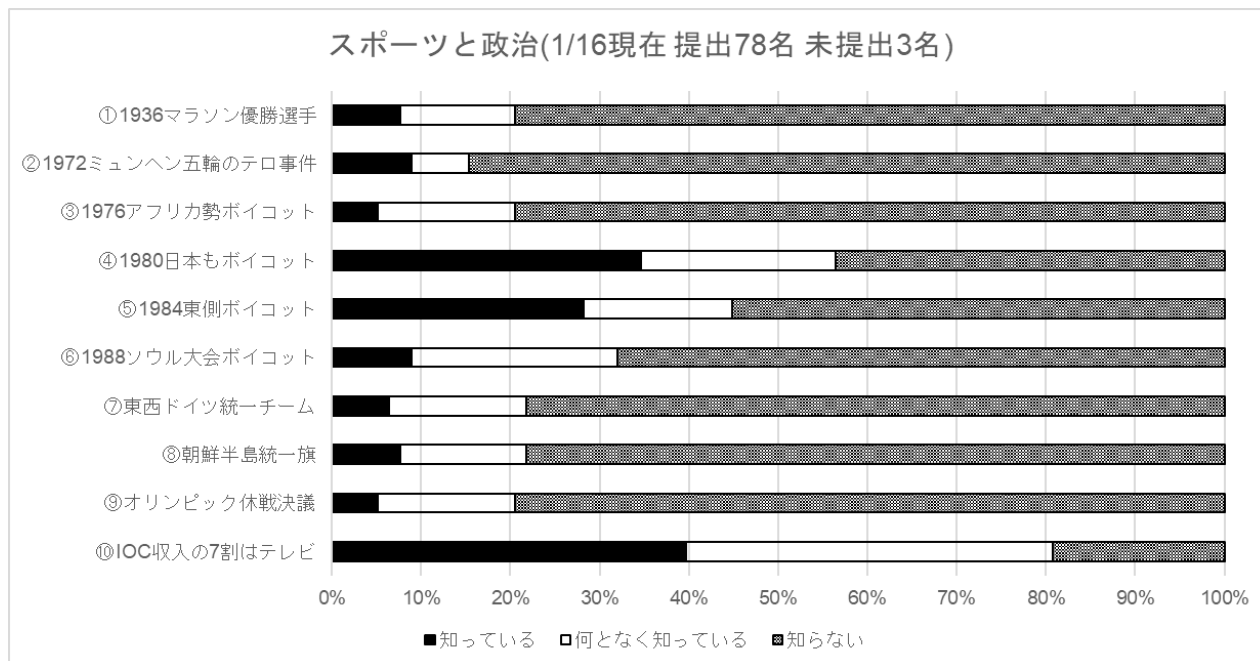


(4)あなたは将来、どの分野の「プロ」を目指そうと考えていますか？ その分野の「プロ」とは、どのような存在ですか(どのような人を、その分野の「プロ」と呼びますか)	
1	サラリーマンの分野→給料目当てで働くのではなく、社会の役に立ちたいと言う意思のもとで働く人
2	警察官。ひたすらに練習に励める環境にあり、その環境の中でただ強くなることを極めようとする人。
3	自分は機械づくりに興味があるので、「機械開発」のプロになりたいと思う。この分野における「プロ」とは、目的に応じた機械の構想を素早く組み上げられる人であると考ええる。なぜなら、初心者でも果てしない時間をかければ最終的に目的のものを作ることができるが、そこにかける時間が熟練度の違いを表しているからである。
4	医学のプロ。人助けを第一の目標として全ての行動を起こすような人々。
5	父親のプロ。どんな時でも優しく人のことを考え、子供のことを親身に考え、時には厳しく、飴と鞭をうまく使い分けるような、正しい方向に導く人。また、人に優しい人。
6	現在はプログラマーのプロを目指そうと考えています(プロが続いてややこしいですね笑)。ではプログラマーのプロとはどのような人でしょうか。正直これはプログラマーに限らずだいたい仕事やサラリーマンにいえることになるとはおもいますが、私はフリーランス・フリーランスでないを問わずアルバイトや副業でなくプログラミングをメインにして生計を立てている人のことをプロのプログラマーであると考えます。まずプログラマーのアルバイトについてですが、マクドナルドやミスタードーナツと同じように、プログラマーの世界でもアルバイトという概念は存在します(うちの学年でも学生ながらすでにアルバイトをしている人がいます)。しかし、いくら給料をもらっているとはいえ、どうしても片手間に行くという点でプロとは異なる存在であると考えます。プロであるからには、自分の生涯全てを、とはいいませんが、少なくとも片手間に行くようなものではないと考えます。また、フリーランス・フリーランスをでないを問わず、とつけたのは、プログラミングの世界はフリーランスのプログラマーというものは一定数存在することを考慮してのことです。フリーランスだと企業に属していないため、なんとなく正規の会社員っぽくないからプロっぽくないように感じるかもしれませんが、別にその人たちはプログラミングを極めようとしていないわけでも、仕事をしていないだけでもなくただただ企業に属さずに独自でプログラミングで生計を立てているだけなのです。プログラミングをメインとして生計を立てている以上、企業に属していても、属していてもプロであると考えます。 プロとは何かを考えたときに、私の根底にあるのはそれで生計を立てているか否かであると思います。それと上記の理由をもとに、私はフリーランス・フリーランスでないを問わずアルバイトや副業でなくプログラミングをメインにして生計を立てている人のことをプロのプログラマーであると考えました。
7	フットボールに関する仕事のプロ。そのプロは国際的な仕事をし、お金を貰う人。
8	その人にしかできない技術や能力を持っている人
9	私はIT技術者のプロを目指そうと考えている。その分野のプロとは、金銭を第一の目標とせず社会をより豊かにするためにどのようなシステムなどがあればよいか考え出し、周りと協力してそれを完成させられる人を指すと思う。
10	ある物事を本職とし生計を立てている人のこと
11	私の考えるプロとはそれに没頭しているすごい人というイメージです。
12	自分は将来国際関係のプロを目指そうと思っている。その中で通訳に目を向けてみる。今考えるプロと言う人たちは何か国語も喋ることができ、国やスポーツを代表するような人のことを言うのではないかと思う。
13	自分は法律会でのプロになりたいと思っている。法律会でのプロは、裁判官であったり、弁護士、検察官などの司法試験を合格した人であると思う。
14	どの分野のプロを目指したいかは何も浮かばない。今は「どうしてもこれがしたい！」というものがいないからだ。ただ、何かしらの分野のプロを目指すことは大切だと思う。「プロ」とはその分野の発展を引っ張っていく手本のような存在であるべきだと思う。だからこそ、いわゆるプロ選手が不正を働いていた時に新聞やその他メディアで大きく報道されるのだと思う。
15	僕は野球のプロを目指そうと思う。野球のプロというのは、プロ野球選手のことではなく、僕が考えるのは野球を本気でやっている人はみんなプロだと思う。本気でやっていたら、草野球でもプロだし、高校野球でもプロだと僕は思う。
16	会社員 ・報酬や称賛など、自分の目先の利益を目的としない人 ・自分に与えられた仕事に熱心に取り組む人 ・誠意をもって人のために行動する人 ・会社員という職業やその仕事内容にやりがいを感じている人
17	会社員になって給料をもらっている以上プロだという意識を持って気を抜かず仕事にこなしていく。
18	分野：医療。患者の生命ないし健康を守るという使命のもと、責任を持って治療に当たる。またそのことに喜びとやりがいを感じる人。
19	コンピューター 資格や検定で一定の実力を証明していて、その仕事で報酬を受け取っている人
20	とりあえずサラリーマンの「プロ」になろうと考えている。具体的に何になりたいなどは大学生になってからアルバイトやインターンなどで決めて決めていっている、今時点ではそれしか思いつけないからだ。サラリーマンの「プロ」とは派遣社員や契約社員と異なり、正式に入社し正規社員として給料を貰うことになれると思う。そしてそこから、「プロ」の中でも一軍、二軍のように格付けされていくのが昇進制度だとも思う
21	今、自分はどの分野のプロを目指そうと考えているわけでもないが、会社員や医師などを目指すにしてもそのプロに必要なものは目的意識と熱意と準備であると思う。目的意識については、目的をもって仕事に取り組めるかということである。組織や職務そのものが持つ目的と自分にとってのその職務を行う目的を明確に持っている人がプロといえると思う。熱意については、熱意をもって仕事に取り組めるかということ、心の底から、増し遂げたいと思っているか、一つ一つの仕事に全力で取り組めるかということである。準備は、一つ一つの仕事にしっかりと準備をして取り組めるかということである。この三つが今現在、自分が目指したいプロの存在である。

22	私は将来会社に勤めることになると思うのだが、会社の中で「プロ」という存在は、ただ働いているだけの人ではなく、何のために誰のために仕事をしているか認識しながら働く人のことを言うと思う。職業は社会の誰かが必要としているからこそあるのであって、お金を目的とするのではなく、目的・目標をしっかりと見据えて仕事をこなしていくのが一流の人なのではないだろうか。あまり自分の中でなりたいものが定まっておらず、抽象的な回答になってしまいました。
23	法律のプロ。呼ぶと思う。報酬のためだけではなく、公共の福祉、人権など社会に、人間にとって必要なものを守るから
24	現時点では、将来の夢が決まっていないので、社会に出たあと、大人としてのプロとはどういうことかを考える。大人のプロとは、与えられた仕事をこなすだけでなく、社会のニーズに最大限のパフォーマンスをすることであると思う。よって、収入をどれだけもらっていても、どんなに高い地位についていても、それは関係ないことであると思う。
25	現時点では経済や経営系の分野のプロを目指そうと考えている。多くの人を助けられるような知識を持っていて、経済のことを学ぼうとする人に対して教える側の人、経済を回すためにどうするかなど、政府に関わっている人などをこの分野のプロと呼ぶと思う。また、この分野に関わる仕事を持ったときに、その仕事に対する報酬ではなく、その仕事をする意義をしっかりと理解し、使命感を持って仕事ができる人のことをプロと呼ぶのだと思う。
26	自分の中でははっきりとこの分野のプロになりたい、と思うことは今はないです。でも少し違うかもしれないけれど、人の気持ちに寄り添える人としてのプロになりたいです。そうゆう人としてのプロがどんな存在かと考えると、人に頼られる、とか人望がある、という事になってくるような気がします。つまり、自分以外の第三者にプロだと認めさせることがプロと呼べる条件のような気がします。他の分野でも、例えばスポーツ選手でもその人以外のみんながプロだと思えばその人はプロとして扱われるから、プロであるには他人の存在が必要不可欠だと思いました。
27	漠然と、福祉の仕事か他国の人たちと関わる仕事がしたいと考えている。福祉の仕事は、どれだけお金を稼げるかではなくて、どれだけの人に寄り添って、困っている人を助けられるかが大切だと思うので、人と正面から向き合っ、相手のことを自分のことのように考えられる人が「プロ」だと思う。国際関係の仕事の「プロ」は、言語で意思疎通できるだけでなく、その国や人の文化、考え方、大切にしていることなどを受け入れる寛容な心を持つ人だと思う。
28	将来私はいわゆる研究職と呼ばれる職業に就きたいと考えている。その分野のプロと呼ばれる人は、最初は大学の教授などその分野のみを追求し、その内容を生徒や弟子のような存在の人に教える人を想像したが、スポーツにおけるプロはスポーツによって稼いでいる人だということを考慮したら、研究職という仕事に就きお金を稼いでいる人は全員がプロと呼べるのではないかと思った。ただ、プロの中にも階級があり、そのトップに分類される人として大学の教授などが入るのではないかと思う。
29	会社員のプロフェッショナルを目指そうと考えています。プロとは、自分の職務に誇りと責任をもってとりくむ人のことだと思います。
30	心臓外科、または司法解剖医。まず、医師免許を所持している。そして、ある程度の技術と慧眼を持っており、たくさんの症例や事件を扱った経験がある。
31	医療分野のプロを目指したい。この分野のプロとは、患者のことを一番に想い責任感を持って治療に専念する存在だと思う。自分が担っている役割を理解してその任務を遂行する人をプロというのではないか。逆に収入目的やその他利己目的で仕事をしている人はプロとはいえないと思う。
32	やりたいことが見つからないので何も言えませんが、自分のやっていることに自信をもって取り組んでいる人のことだと思います。
33	ダンスのプロ。人に教える立場に立って、ステージを作り上げたりできるのがプロだと思う。
34	化学系 一つの問題解決に対して様々な面からアプローチでき、そのどれにおいても権威となる存在
35	プロというのはお金をもらっているかというのは関係なく、その分野において技術や知識を熟知していて、さらにその分野が好きであればそれはだれでもプロと言えるのではないかと思う。私は将来の夢などは決まっていないので、職業的なプロの展望は何も見いだせていないが、人の話を聞くプロにはなりたいたいと思う。先ほど言ったようにプロというのはお金がすべてではないと思う。将来について何も決まっていないが、それでもどんな分野であれ人の話を聞いて、考えをまとめることはこれから先何よりも大切になることだと思う。そのため、人の本心をどうやって聞き出せるか、どうしたら相手が心地よくこちらに話してくれるかなどのスキルを身に付けられたらいいなと思った。
36	まだ決めていないが、自分の好きな分野、楽しめる分野の仕事につきたい。どのような分野でもプロは自分のついている専門職に誇りを持っていて、(つらくてやめたくなくなったり嫌になる時もあるだろうが)その職や分野が好きだと思う。プロ意識というように、単に能力に優れているだけではダメで高い志を持っている人がプロなのだと思う。プロ＝専門職化と単なる仕事＝職業化の違いはそこにあると思う。才能だけではダメで努力も必要ということかなと思った。
37	「どの分野の」はまだはっきりとは決まっていないが、私が考える「プロ」は何か一つでも打ち込んでいるものがある人のことを指すと思う。その人がその何かにおいて上手とか下手とか関係なしにどれだけ熱意を持ってやっているのか、気持ちの面でのプロフェッショナルの定義もあると思う。
38	エンターテイナーのプロになりたい。そのプロとは、私が思うに、他人を心の底から感動させられる人だと思う。
39	私は医療機関に行くことを望んでいます。医療機関の中でももちろん医師が一番難しく偉いですが、だからといって他の看護師や薬剤師を無下にしていいわけではありません。彼らもその分野では専門家にあたります。彼らは全員資格を取り技術を培う人たちです。ですので明確な「プロ」や「アマチュア」といった区別はないでしょう。ただ、「教授」などそれ相応の身分を持つ方達を「プロ」と呼称する機会はあるのではないのでしょうか。
40	私はお医者さんになりたいと考えています。医学界に置いてプロとは、誰からも信頼されて、かつ、他人の命をきちんと扱える人のことだと思います。

## < 体育理論 「知っているか調査」 ③ >

■ 11/6配信～11/11締切(11/12 pm6時現在 69名提出/12名未提出)



- 1) 朝鮮半島で生まれ、育ったマラソン選手が、日本代表としてオリンピックに出場し、金メダルを取ったことがある。
- 2) 1972年のミュンヘン大会期間中、選手村のイスラエル選手団が「パレスチナゲリラ」に襲われ人質となる事件があった。西ドイツ警察特別部隊との銃撃戦の結果、5人のゲリラと人質全員、警察官一人の17人が死亡する惨事となった。大会続行も危ぶまれたが、当時のブランデー会長らIOCは臨時総会で継続を決定、半旗を掲げて競技を実施した。「オリンピックはテロリストたちの犯罪によって中止されてはならない」との決意が世界に向けて発信された。
- 3) 1976年のモントリオール大会では、開会前日にアフリカ諸国がボイコットした。彼らの主張は、「ニュージーランドは、人種差別政策をとっている南アフリカにラグビーチームを派遣し、交流している。そのニュージーランドが今大会に参加するならば、われわれはボイコットする」であった。
- 4) 1980年のモスクワ大会に、日本は選手団を派遣しなかった。
- 5) 1984年のロサンゼルス大会に、東側諸国は選手団を派遣しなかった。
- 6) 1988年のソウル大会でようやく東西両陣営がそろったが、北朝鮮、キューバらがボイコットした。
- 7) 冷戦時代の東西ドイツが統一チームを結成し、1956年コルチナ・ダンペッツォ冬季大会から1964年東京大会まで、一つの旗、同一のユニフォームで開会式の入場行進をした。
- 8) 2000年シドニー大会の開会式では、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国の選手団が朝鮮半島を象った統一旗を掲げて、ともに入場行進をした。
- 9) 通称「オリンピック休戦決議」は、ユーゴスラビアにおける休戦を訴えた1994年のリレハンメル冬季大会以降、国連総会で採択されてきた決議である。今夏の東京オリンピックとパラリンピック期間中も、全ての国連加盟国間の休戦が呼びかけられた。
- 10) IOC（国際オリンピック委員会）の収入の7割はテレビ放送権料である。

## 11/13 スポーツと政治

1) ねらい

★以下の「知識」を獲得する

- ①肥大化するオリンピックと政治のかかわり
- ②東西冷戦など社会情勢に左右されるオリンピックのすがた
- ③日本と朝鮮半島のサッカー交流史からみえる「スポーツと政治」の諸相

★ナショナリズムと帰属意識について考える

- ①スポーツと政治をめぐるさまざまなトピックを通して自分の考えを整理する
- ②自分の身近なところにある「ナショナリズムと帰属意識」について考える

2) 進め方【音声付きスライド視聴（28分）】注3)

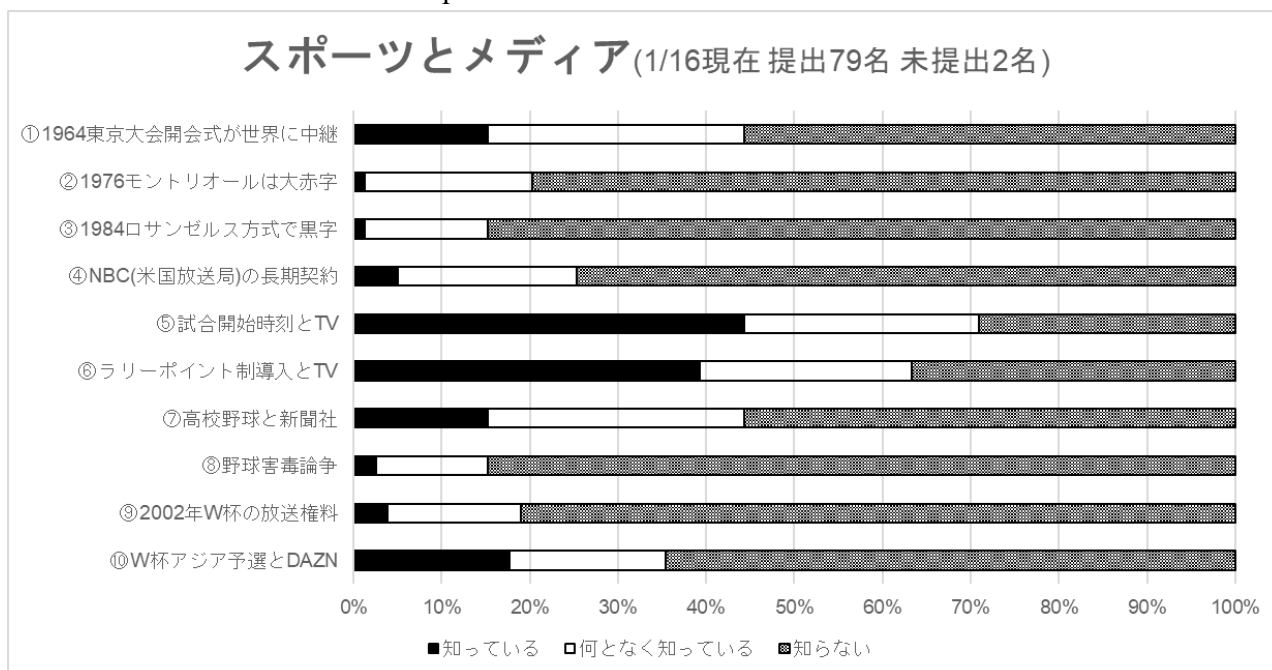
段階	時間	授業の進め方	留意点
導入	7分	前時の内容確認—アンケート結果の共有 本時のテーマと進め方の確認 ・授業動画を視聴する ・配布資料を読む ・グーグルフォームに授業課題を記入	授業に臨む態勢を整える
展開①	7分 4分	発問：「スポーツと政治」と言ったらどのようなことを思い浮かべるか？ 1. 東西冷戦時代のオリンピック ・ボイコット問題／テロ事件など闇の部分 ・スポーツでの融和など明るい部分 2. 1940、1964、2021年の東京オリンピック ・スポーツと政治の観点から考察 ・2021年については…自分で考察	授業者の場合は「ボイコット問題」
展開②	2分 6分	1. スポーツと政治で押さえておきたい視点 ・スポーツの自立とは？ ・スポーツの可能性は？ ・ナショナリズムと帰属意識 2. 日本と朝鮮半島のサッカー交流史 ・1936ベルリン五輪 ・1954FIFAワールドカップ・スイス大会予選 ・2002FIFAワールドカップ日韓共催大会 ・2010FIFAワールドカップでの在日朝鮮選手の涙	資料を読みながら確認する
整理	2分	本時の内容についての感想（数名）	グーグルフォームに記載

注3) 音声付きスライドとともに、あらかじめ配布された資料を読み込む形で授業を進めた。

- ・中塚義実：スポーツと政治をめぐって—日本と朝鮮半島のサッカー交流史から考える
- ・村岡博人：悪夢と感動
- ・竹内宜之：父（竹内悌三）の遺言「二人の息子には附属でサッカーをさせる」

## < 体育理論 「知っているか調査」 ④ >

■ 11/13配信～11/22締切(11/24 pm5時現在 74名提出／7名未提出)



- 1) 1964年東京五輪では、史上初めて、通信衛星を用いて開会式が世界主要国に同時中継された。
- 2) 1976年のモントリオール五輪は、石油危機で物価が高騰したこともあり、大きな赤字を出した。
- 3) 1984年のロサンゼルス五輪では公的資金の投入が認められず、すべて民間資金で運営された。組織委員会はテレビの独占放送と一業種一社限定のスポンサー契約を考案し、約2億ドルの黒字を生んだ。
- 4) アメリカのNBCユニバーサル（放送局）は、2014年ソチ冬季五輪から2020年東京までの4大会を、総額43億8000万ドルで契約。2022年から2032年までの6大会分のアメリカ国内向け放送権を、1大会あたり平均12億7500万ドルで契約済である。
- 5) 東アジアで開かれるオリンピックで各種目の決勝が午前中に行われることが多いのは、アメリカのテレビ局の意向が大きく反映されている。
- 6) バレーボールでは、サイドアウト制（サーブ権を持つ側のみが得点できる）に代わって1999年にラリーポイント制が採用された。サイドアウト制は試合の終了時刻が読めず、大会運営上不都合であったことに加え、テレビ中継にも適しているとは言えず、各テレビ局から放映権の放棄を示唆されたことがルール改正のきっかけとなった。
- 7) 全国高校野球選手権大会（夏の甲子園）は、1915年に大阪朝日新聞社がはじめた。
- 8) 1911年に東京朝日新聞紙上で展開された「野球害毒論争」は、学生野球のあるべき姿について一大論争を引き起こした。
- 9) FIFAワールドカップの放送権料は、2002年の日韓共催大会で一気に跳ね上がった。
- 10) FIFAワールドカップ・カタール大会のアジア最終予選で、日本代表のアウェーゲームのテレビ中継はない。DAZN（ダゾーン）の中継のみである。

## 11/27 スポーツとメディア

1) ねらい

★以下の「知識」を理解する

- ①日本のスポーツと新聞社のかかわりー高校野球・プロ野球を中心に
- ②テレビとスポーツのかかわりーオリンピックと FIFA ワールドカップを中心に
- ③スポーツとメディアをめぐる諸課題

★スポーツとメディアのこれまでとこれからについて考える

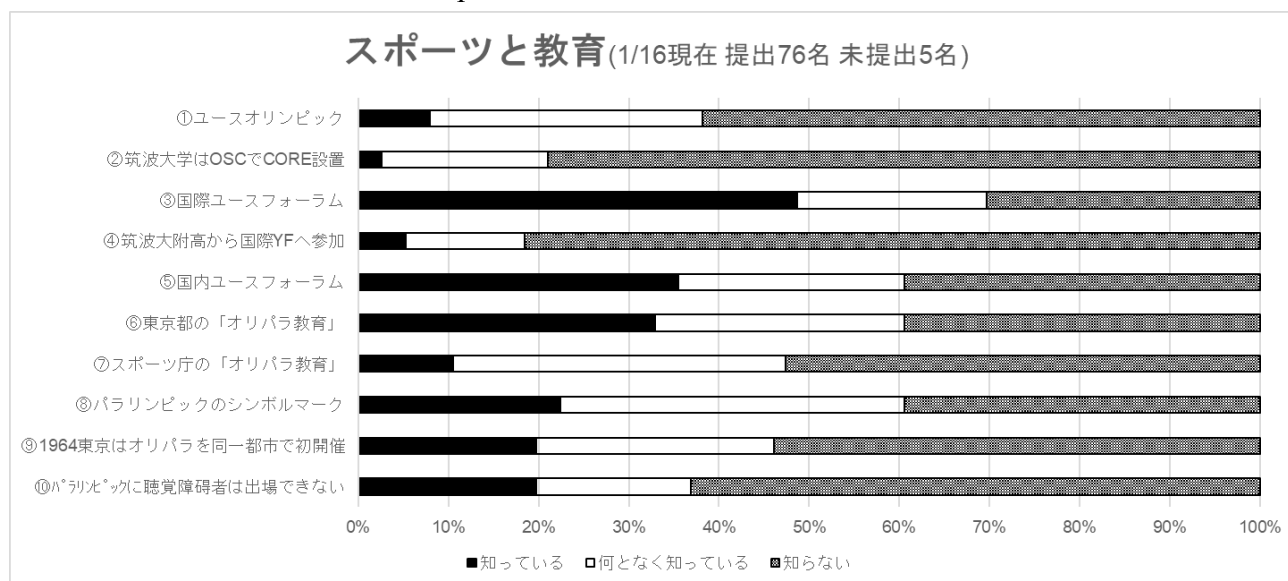
- ①野球害毒論争と高校野球ー「学生らしさ」とは何か
- ②メディアとのかかわり方ーこれからの方向性

2) 進め方 (略案)

段階	時間	授業の進め方	留意点
導入	7分	挨拶・点呼 前時の内容確認①週番が答える ②アンケート結果の共有 本時の内容確認	授業に臨む態勢を整える ・「知っているか調査」結果の共有 ・オリンピックの肥大化とテレビの関係
展開①	13分	1. スポーツとメディアのかかわり 発問「なぜ日本の真夏にオリンピックを行ったのか」 発問「どのようなメディアがスポーツを伝えてきたか」 ・芸術作品・新聞や雑誌・ラジオ・映画 ・テレビ ・インターネットや SNS	生徒の発言を促し授業を進める
展開②	13分 12分	2. 高校野球・プロ野球と新聞社のかかわり ・朝日・毎日新聞社と高校野球 ・読売新聞社とプロ野球 ・野球害毒論争の背後にあるもの 3. テレビとスポーツ ・1984 ロサンゼルス五輪以降のテレビ放送権料の高騰 ・2002FIFA ワールドカップの放送権料をめぐる騒動 4. これからのスポーツとメディアの諸問題 ・誰のためのスポーツか (競技者第一? 視聴者第一?) ・見るスポーツの権利は? ・ルールや競技運営の変化 ・メディアにおもねるスポーツ界 ・インターネット時代のスポーツ	資料を読みながら確認する  テレビ放送権料の推移については教科書のグラフを参照する  資料を読みながら確認する  「これから」について生徒の意見を引き出す
整理		本時の内容についての感想 (数名)	

## < 体育理論 「知っているか調査」 ⑤ >

■11/27配信～11/30締切(12/10 pm6時現在 71名提出／10名未提出)



- 1) 2010年より「ユース・オリンピック競技大会」が夏と冬に開かれるようになった。14歳から18歳までが対象で、選手は大会の全期間を通じて、選手村への滞在と、文化・教育プログラムへの参加が義務付けられている。
- 2) 筑波大学は日本で唯一のOSC（オリンピック・スタディ・センター）としてIOCから認定され、日本におけるオリンピック教育の先導的な役割を、附属学校とともに担っている。2010年にはオリンピック教育の研究・実践を推進する機関として「筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）」が設置された。<https://core.taiiku.tsukuba.ac.jp/>
- 3) 世界中の高校生が集まり、座学や討議、スポーツや芸術活動を通してオリンピズムを学び、交流を図る、「国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム（国際YF）」が2年に一度開かれている。
- 4) 筑波大学附属高校から国際YFに生徒が派遣されるようになったのは、2011年度の北京大会からである。
- 5) 国際YF派遣生徒の選考を兼ねて「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム（日本ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム）」が開催され、筑波大学附属高校から毎年生徒が参加している。
- 6) 東京都教育委員会は、2020年の東京開催を機に「オリンピック・パラリンピック教育」に取り組んでいる。<https://www.o.p.edu.metro.tokyo.jp/>
- 7) スポーツ庁は、2020年の東京開催を機に「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」に取り組んでいる。[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop08/list/detail/1407880.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop08/list/detail/1407880.htm)
- 8) パラリンピックのシンボルマークは、3色の曲線で描かれている。この赤、青、緑色は世界中の国旗で最も多く使われている色で、人間にとって重要な心、体、魂という3つの要素を示している。
- 9) オリンピックとパラリンピックを同じ都市で開催したのは1964年の東京が最初である。
- 10) パラリンピックに聴覚障がい者は出場できない。

## 12/11 スポーツと教育／まとめの議論

1) ねらい

★以下の「知識」を理解する

①オリンピズムの教育的意義

②オリンピック教育の実際—特に「国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム」について

★TOKYO2020 を考える—後期課題レポートに向けて

①日本オリンピック委員会（JOC）会長のインタビューを通して

②後期の課題レポートに向けて（レポート課題は以下から選択）

- ・「今夏の東京オリンピック・パラリンピック」について思うこと
- ・「これからのオリンピック・パラリンピック」について思うこと
- ・「コロナ禍における生活とスポーツ」について思うこと

2) 進め方（略案・構想段階）

段階	時間	授業の進め方	留意点
導入	7分	挨拶・点呼 前時の内容確認①週番が答える ②アンケート結果の共有 本時の内容確認	授業に臨む態勢を整える ・「知っているか調査」結果の共有 ・
展開①	23分	発問「TOKYO2020 に向けて各校で為されていたオリンピック教育は？」 ・東京都やスポーツ庁で行われていたオリパラ教育 ・IOC が進めるオリンピズムの浸透策 ・国際 YF の紹介とそこで感じたオリンピック教育—日本ではすでに為されている！ 発問「なぜ日本ではすでに為されていると言えるのか」 ・スポーツが学校を通して普及し、“遊び” よりも教育的意義が強調されてきた。	近くの生徒同士で話し合う（中学時代に受けたオリパラ教育や他校の生徒から聞いた話など）  スライドを用いて紹介する  生徒の身近なところにつなげる
展開②	15分	JOC 会長の・山下泰裕氏インタビューを視聴する注4) ・主催者は何を考えていたのか ・競技者側・主催者側の視点と社会の側からの視点 ・コロナ禍における生活とスポーツについて	1984年ロサンゼルス大会柔道無差別級決勝の映像を視聴し山下氏の背景を理解させる。
整理		本時の内容についての感想（数名）	

注4) 一般社団法人カルティベータ<<https://thecultivator.jp/>>代表の宮嶋泰子氏（フリージャーナリスト）からの情報提供により、山下泰裕 JOC 会長のインタビュー映像を活用することができた。そのため当初予定していた意見交換は割愛した。



## 【参考：グーグルフォームでの振り返り】

授業後に、グーグルクラスルームに回答用のフォームをアップし、当該授業の振り返りを行った。毎回の設問は次のとおりである。

- 1) 本時の授業への興味・関心（5段階）とその理由（理由については任意）、
- 2) 本時の授業の理解（5段階）とその理由（理由については任意）
- 3) 本時の授業で「学んだこと、感じたこと、考えたこと」（自由記述）
- 4) 質問や感想、要望などがあれば書いてください（自由記述）
- 5) 課題作成にかかった時間（5択）

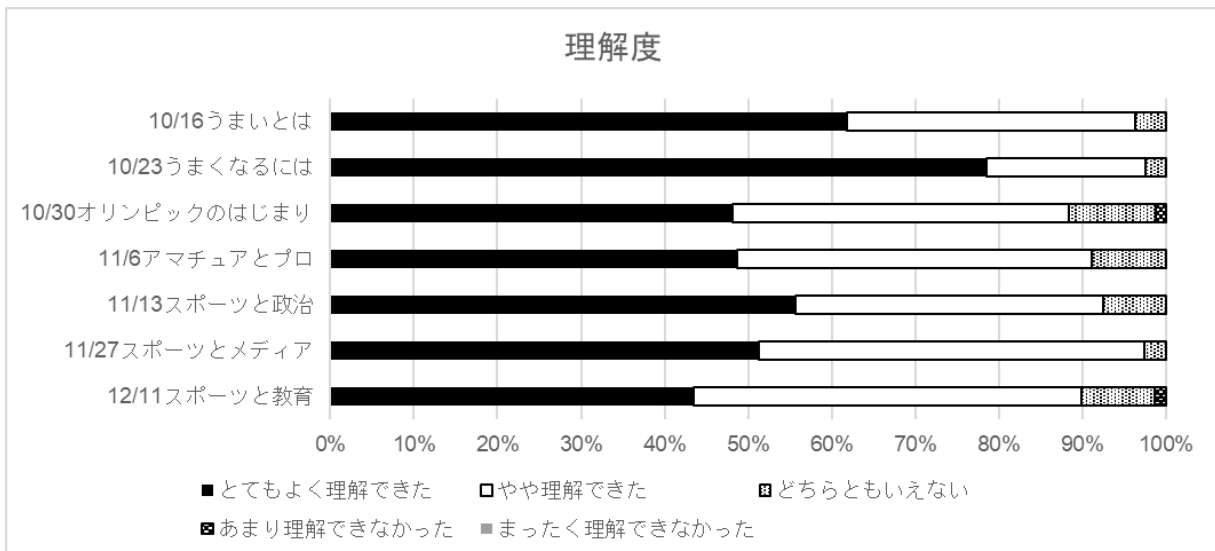
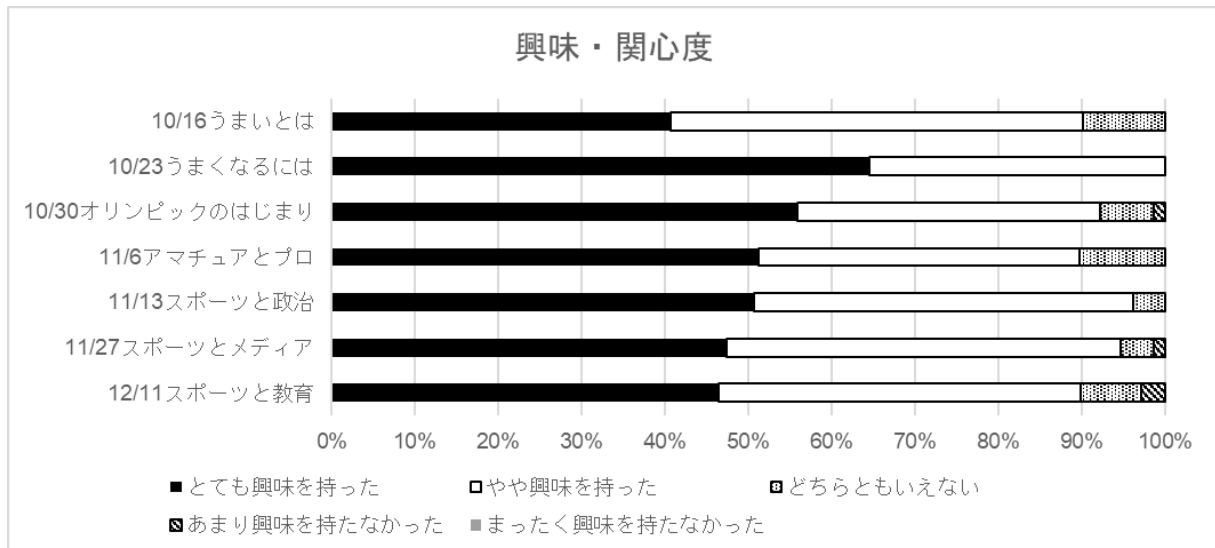
上記に加え、10月30日の「オリンピックのはじまり」以降は「知っているか調査」を、11月6日の「アマチュアリズムとプロフェッショナリズム」以降は、以下の項目を加えた。

11/6：「あなたは将来、どの分野の「プロ」を目指そうと考えていますか？ その分野の「プロ」とは、どのような存在ですか（どのような人を、その分野の「プロ」と呼びますか）」

11/13：「本時の授業（配布資料①②および村岡さん、竹内さんの原稿）で「学んだこと、感じたこと、考えたこと」（自由記述）

11/27：「1月22日提出の課題レポートについて一現時点での構想など（自由記述）」

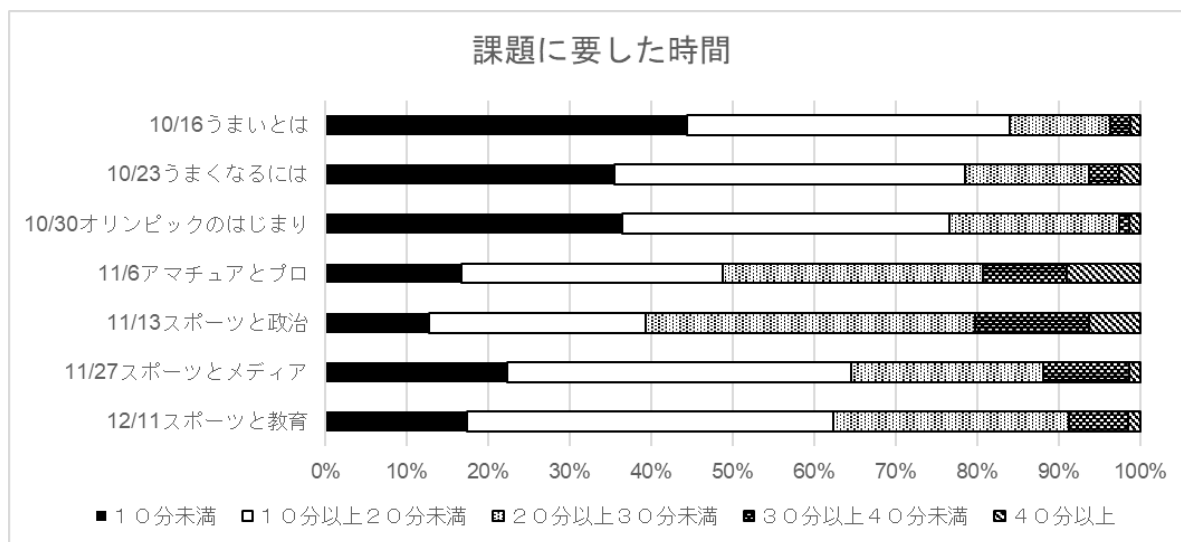
12/11：「山下泰裕 JOC 会長のインタビューで「学んだこと、感じたこと、考えたこと」（自由記述）」



各授業とも、興味・関心、理解度はいずれも高いレベルにあることがわかる。生徒の半数は理由も記しているが、生徒が授業テーマにのめりこんでいる様子がうかがえる。

「課題に要した時間」は、オンライン授業の課題には必須の質問項目であると考え。生徒の負担を把握したうえで、オーバーワークにならぬよう、適切に課題を示す必要がある。

授業の中身を踏まえ、授業後に考えさせる課題が追加された「アマチュアリズムとプロフェッショナルリズム」以降は、課題作成に要する時間が増えてきた。個人差はあるが、おおむねこの範囲であれば妥当であると言えるだろう。



#### IV. 研究大会教科分科会での意見

##### 【質問（大学教師）】

「知っているか調査」は、①生徒への質問はグラフにある短文なのか、②生徒の自己申告で本当に知っているかどうかは問わないのか、③どのタイミングで実施しているのか。

##### 【回答（中塚）】

コロナ禍で得た技術であるグーグルフォームを用いた。①については、グラフに示された短文でなく、その下に記した説明文を示した上で、知っているかを聞いた。②については、生徒がどの程度知っているかを把握するためであると同時に、質問の形を取った情報提供である。これだけの情報を授業で扱うには時間が足りない。授業前に生徒の意識を高めるねらいもある。③について、授業で感じたこと・考えたこと等を授業直後にグーグルフォームで問う。そのフォームに、次回の「知っているか調査」を載せている。土曜日の授業後に配信して、提出は次週の火曜日としている。

##### 【質問（高校教師）】

①「知っているか調査」の結果を生徒にフィードバックする際、その数値（知っている〇%など）の紹介に“ねらい”などは込められているか。②反転学習のような形になるが、実際に生徒はどれくらい理解して参加して来るのか。

##### 【回答（中塚）】

①は特に深い意味はない。普段の授業でも「理解度を5段階で自己評価せよ」と生徒に聞いて反応をみることはある。「興味・関心」や「理解度」は、黒板に簡単な図を描いて示す程度で、本研究会資料のような示し方はしない。②反転学習と言うのもおこがましい気がする。生徒を事前に“くすぐる”程度で、授業の導入部分としている。

【質問（大学教師）】

久しぶりに附属らしい授業をみた。中塚先生には積み重ねたものがあり知識の教授が分厚くなる。授業前半では生徒の話し合う場面が見られたが、後半は知識伝達になっていった。時間の無い中で難しいが、知識を深めた後に議論させる場面があるといいと思う。授業運営についてどのように考えるか。

【回答（中塚）】

45分授業が影響している。あと5分あれば再度話し合いもできるだろう。ただ、アクティブラーニング（AL）が大切だからと言って、話し合いの時間を無理やり確保することは絶対にしない。伝えるべきことを伝えることが大切で、優先すべきことだと思う。

【質問（大学教師）】

①生徒の発言に対して、他の生徒が発言していくような事例はあるか。②生徒の提出課題をどのように評価しているのか。ルーブリック評価とかしていますか。

【回答（中塚）】

①今回の授業の中ではなかったかな…。次回“オリパラ教育”の内容では、生徒のやり取りを期待している。ディスカッション中心の授業もあるが、話し合うことを目的とはしていない。

②評価も、あまり細かくはみないし、しようとも思わない。頭の中で評価基準は整理できており、5・4・3くらいで評価する。大量の成果物を処理するには、ルーブリックにこだわってられない。

【質問（高校教師）】

①事前資料にもあったが「話し合いのための話し合いは不要」とはどのような意味か。②スポーツと政治の資料に関して、体育は、遊び・スポーツ競技・戦争のどこに位置づけられるか、生徒の回答や様子があれば知りたい。

【回答（中塚）】

①ALという言葉が出てきたころから疑問に思う、生徒が話し合う前提となる情報を持っていないのに“さあ話し合おう”と時間を確保するのは、実に“くだらない”と思う。②体育ではないが、部活ではこの話をよくしている。部活には、競技志向とプレイ志向の生徒がいて、部のことを大切に考える生徒たちは議論する。体育の中でこういった話はあまりしないが、体育における競技志向を否定はしない。ただ、多数の生徒が有意義に・楽しく授業に関わるうえで大切なのは“遊び心”だと思う。生徒は“遊び方”がヘタ。“ちゃんと遊ぶ”ことがこの国のスポーツ文化を発展させていくために大切だと考える。

【質問（大学教師）】

授業はじめに計画していた内容と、実際に授業をして生徒にふれて、変更した点・対応などがあれば知りたい。

【回答（中塚）】

授業についてはほぼ予定通りに進んでいる。生徒の反応もほぼ想定範囲内である。ただ、授業以外の、行事や委員会活動をみていると、近年驚かされることがたくさんある…が、そういった“できない具合も予想どおり”。昔は失敗(?)もたくさんあり、試行錯誤していた。

若い大学生へのメッセージとしては、“トライ&エラーをたくさんしてください”と言いたい。

## ＜ 体育理論・学習計画 ＞

### I. 学習目標

#### 1. 社会現象としての体育・スポーツの理解

体育やスポーツは、世の中の動きと無関係に存在しているわけではない。また、現代の体育・スポーツはいきなり出現したものではなく、歴史的な変遷の過程の産物である。

体育・スポーツをめぐるこのような歴史的・社会的背景を知ることが、体育・スポーツのよりよい理解につながる。そして過去を知り現在を知ることにより、未来への方向性を探ることができる。

#### 2. 合理的・科学的な運動の方法・仕組みの理解

一つひとつの運動には、合理的な良い方法がある。また、日常のトレーニングも身体の仕組みを知った上で科学的に行えばより大きな成果を上げることができる。

### II. 学習内容 (2021 年度案)

回数	授業テーマ	授業日 (土)
1	オリエンテーション／「体育」とは何か	4/17
2	「スポーツ」とは何かースポーツ社会学の知見から	4/24
3	「チーム」と「クラブ」のとらえ方	5/1
4	予備日	5/8
5	子どもの遊びとスポーツー「体ほぐし」導入の背景	5/15
6	体カトレーニング<教育実習生担当>	5/22
7		5/29
8	運動生理学概論Ⅰ：筋肉の生理学	6/12
9	運動生理学概論Ⅱ：呼吸・循環の生理学	6/26
10	スポーツ栄養学：いつ、何を食べればよいか	7/3
11	運動と安全	9/4
12	スポーツ障害・外傷とその予防	9/18
13	運動技能の構造と運動の学び方Ⅱ：うまいとはどういうことか	9/25
1	運動技能の構造と運動の学び方Ⅱ：どうすればうまくなるか	10/16
2	メンタルマネジメントⅠ：あがりと火事場の馬鹿力	10/23
3	メンタルマネジメントⅡ：メンタルトレーニング	10/30
4	集団とリーダーシップⅠ：集団の構造と機能	11/6
5	集団とリーダーシップⅡ：リーダーシップとフォロアーシップ	11/13
6	オリンピックのはじまりとクーベルタンの思想	11/27
7	嘉納治五郎と東京高等師範学校	12/11
-	予備日	(1/8)
8	日本のスポーツの発展過程	1/15
9	スポーツと政治	1/22
10	スポーツとメディア	1/29
11	アマチュアリズムとプロフェッショナリズム	2/5
12	予備日	2/12
13	レジャーライフへ向けて	2/19
14	グループレポート発表会	2/26

### Ⅲ. 評 価

1. 日頃の授業への取り組み（出席状況。平常点）

2. 課題レポート

【前期】 1) 夏休みの課題 … 「何らかのスポーツを観戦し、観戦記を提出せよ」

2) 個人レポート … 「運動・栄養・休養の面からみた私の生活」

【後期】 グループレポート … テーマは自由に設定する

※後期については現時点で未定

#### <参考：2020年度 グループレポート・タイトル一覧>

2020年度 1-3(131回生)		2020年度 1-6(131回生)	
幼少期の運動と運動能力の相関について	男1女5	プロテインの効果とは？	男6名
弓道とは	女3名	体育×音楽	男4名
水の中を進む仕組み	男6名	「武道」と「スポーツ」	男3名
各国の準備体操	男4女2	走り方	男4名
バレーボールの技術向上に向けて	女5名	eスポーツはスポーツを超えるか	男5名
ストレスについて	女3名	世界のラジオ体操	女5名
瞑想と脳科学	男4名	オリンピック建造物について	女5名
筋トレ・睡眠と記憶力の関係	男4名	精神体育	女4名
各運動に必要な筋肉	男3女2	世界のオリンピック・パラリンピックへの取り組み方・意識	女6名

注) 1月からの「分散C」移行に伴いレポートは完成できず、序論のみの提出となった。

## < 体育理論・前期課題 (含夏期休暇中課題) >

担当教諭：中塚義実

### I. 夏期休暇中課題＝スポーツ観戦及び観戦記

#### 1. 夏期休暇中に何らかのスポーツをみること

- 夏期休暇中に行われたイベントが対象である！
- 扱うスポーツは、高校野球、インターハイなどの高校生の大会だけでなく、小中学生の大会、大学や社会人の大会、プロスポーツなど何でも良い（但し、自分が直接関わっている部活動の試合などは認めない）
- 複数のスポーツイベントの比較でも良い
- 実際に現地へ行って自分の目でみてくるのが望ましい。~~その場合チケットの入手もまたこの課題の一部である~~
- どうしても直接観戦ができない場合のみ、テレビやインターネットでの観戦を認める（直接観戦できない理由を明記する）。ライブ観戦の場合は感染防止・暑熱環境対策を十分とること。
- 試合の場合は、原則として1試合すべてみること
- 「スポーツ」の定義は幅広く捉えてもらいたい

#### 2. 上記1. の観戦記を提出する

- いつ（何月何日何時から何時）、どこで（実際に現地へ行ったのかテレビかなど）、誰と（差し支えある場合は記入しなくて良い）、何を（種目・対象・イベント名など）、どのように（旗を振って応援した、さめた目で見っていたなど）、といった基本的事項は必ず書くこと
  - グラウンド上で繰り広げられるプレーについてだけでなく、スタンドの応援風景、地元での熱狂など、そのイベントに関わってくる様々な社会現象にも目を向け、感じたことをまとめて書くこと
  - B5判の用紙を用いる。枚数は、表紙を除いて5枚以内。あまりだらだらと書かない。
  - 締切は9月に入って最初の授業時（9月4日）。夏期休暇中に完成させること！
- 注）プリントアウトしたものを提出すること

## II. 前期課題＝個人レポート

### 「運動，栄養，休養の面からみた私の生活」

#### 1. 趣 旨

体育理論の授業でトレーニングや栄養，休養の重要性を学習したが，自分達の生活を振り返って考えた場合，どうだろうか。ただの反省ではなく，科学的な裏づけをもとにして考察してもらいたい。

#### 2. 内 容

自分の生活を報告するだけでなく，様々な文献（本，雑誌，インターネットなど）をみて，自分の生活は高校生として，（或いはスポーツマンと比べて，その他）どうであるか（運動量は多いか少ないか，食事の時間は適切か，必要な栄養は取られているか，睡眠時間はどうかなど）を分析すること

#### 3. 構 成

序 論 … どのような問題意識で，どのような方法で取り組もうとするか明らかにする

本 論 … 章立てをして，内容を組み立てていく

結 論 … 序論で示された問題意識はどのような形で解決されたか

参考文献 … 参考にした資料を全て示す

感 想…レポートを終えての感想

(補足資料 … 1週間のタイムテーブルなど)

#### ＜参考＞「本論」の章立て例

- 第1章 夏休みの私の生活…ここで1週間の生活記録（24時間をどう過ごしたか）を提示。さらに、運動（部活動・自主トレ・日常の些細な運動など）、栄養（食事・間食など）、休養（夜の睡眠・昼寝・入浴などリラックスできる活動）の“生データ”を示す（巻末資料でもよい）
- 第2章 私の生活と運動…生活データの中で「運動」に関する部分をピックアップし、データを加工（運動量をカロリーor時間or主観的運動強度で表示／運動の質の考察など）して分析・考察する
- 第3章 私の生活と栄養…生活データの中で「栄養」に関する部分をピックアップし、データを加工（カロリー／栄養素／栄養摂取の時間帯など）して分析・考察する
- 第4章 私の生活と休養…生活データの中で「休養」に関する部分をピックアップし、データを加工（睡眠時間／就寝・起床時刻／精神的休養など）して分析・考察する
- 第5章 運動・栄養・休養のバランス…結論の中で述べても良い

※どれか一つだけ、二つだけというのはあり得ない。運動と栄養と休養のバランスが大切

#### 4. 提 出

締切：9月18日（土）

書式：B5判レポート用紙。枚数自由

注) プリントアウトしたものを提出すること

# ＜体育理論・後期へ向けて＞

担当教諭：中塚義実

## I. 学習目標（再掲）

### 1. 社会現象としての体育・スポーツの理解

体育やスポーツは、世の中の動きと無関係に存在しているわけではない。また、現代の体育・スポーツはいきなり出現したものではなく、歴史的な変遷の過程の産物である。

体育・スポーツをめぐるこのような歴史的・社会的背景を知るとは、体育・スポーツのよりよい理解につながる。そして過去を知り現在を知ることにより、未来への方向性を探ることができる。

### 2. 合理的・科学的な運動の方法・仕組みの理解

一つひとつの運動には、合理的な良い方法がある。また、日常のトレーニングも身体の仕組みを知った上で科学的に行えばより大きな成果を上げることができる。

## II. 学習内容－2021年度体育理論「これまで」と「これから」

2021年度 体育理論 学習計画（後期は10/16時点の予定）			
回数	授業テーマ(2-1、2-4)	2-4	2-1
		±1	±4
1	オリエンテーション／「体育」とは何か	4/17	4/17
2	「スポーツ」とは何か	4/24	4/24
3	「チーム」と「クラブ」のとらえ方	5/1	5/1
4	「院戦」と「東京オリンピック」－2021のスポーツイベントを考える	5/8	5/8
5	子どもの遊びと「体ほぐし」	5/15	5/15
6	体カトレーニング<教育実習生担当>	5/22	5/22
7		5/29	5/29
8		6/12	6/12
9	運動生理学概論Ⅰ：筋肉の生理学	6/26	6/26
10	運動生理学概論Ⅱ：呼吸・循環の生理学	7/3	7/3
11	スポーツ栄養学：いつ、何を食べればよいか	9/4	9/4
12	スポーツ障害：外傷とその予防	9/18	9/18
13	スポーツ障害：腰・膝・肘／運動と発育・発達	9/25	9/25
13	運動と発育・発達／運動の学習－「うまい」とはどういうことか		
1	前期総括／運動の学習－「うまいとは」どうということか(続き)	10/16	10/16
2	運動の学習－「うまくなる」にはどうすればよいか	10/23	10/23
3	【映像収録】オリンピックのはじまりとクーベルタンの思想	10/30	10/30
4	【映像収録】アマチュアリズムとプロフェッショナリズム	11/6	11/6
5	【動画配信】スポーツと政治	11/13	11/13
6	スポーツとメディア	11/27	11/27
7	スポーツと教育	12/11	12/11
8	メンタルマネジメントⅠ－あがりと火事場の馬鹿力	1/15	1/15
9	メンタルマネジメントⅡ－メンタルトレーニング	1/22	1/22
10	集団とリーダーシップⅠ：集団の構造と機能	1/29	1/29
11	集団とリーダーシップⅡ：リーダーシップとフォロワーシップ	2/5	2/5
12	日本スポーツの発展過程Ⅰ－東京高師と嘉納治五郎	2/12	2/12
13	日本スポーツの発展過程Ⅱ－これからのスポーツ環境	2/19	2/19
14	レジャーライフへ向けて－まとめ	2/26	2/26



### Ⅲ. 評 価

<4月17日配布「学習計画」より>

1. 日頃の授業への取り組み (出席状況。平常点)

2. 課題レポート

【前期】 1) 夏休みの課題 … 「何らかのスポーツを観戦し、観戦記を提出せよ」

2) 個人レポート … 「運動・栄養・休養の面からみた私の生活」

【後期】 グループレポート … テーマは自由に設定する

※後期については現時点で未定

↓↓↓

1. 日頃の授業への取り組み

⇒ グーグルフォームを用いて授業ごとに提出課題を設けます (提出は翌週火曜日まで)。

1) 本時の授業への「興味・関心」と「理解度」(5段階評価とコメント)

2) 本時の授業から「学んだこと、感じたこと、考えたこと」(自由記述)

3) 授業テーマに沿った設問 例) あなたはどの分野のプロになりたいですか?

※これに加えて年内は「(オリンピック・パラリンピックについての) 10の質問」が毎回あります。

2. 課題レポート

⇒ 筑波スタディの論文作成と時期が重なるので「グループレポート」は行わない。代わりに、次のいずれかのテーマで個人レポートを作成する。

1) 「今夏の東京オリンピック・パラリンピック」について思うこと

2) 「これからのオリンピック・パラリンピック」について思うこと

3) 「コロナ禍における生活とスポーツ」について思うこと

注) いずれも「サブテーマ」を設定すること。

【課題レポートの提出】

・1ページ1,600字(40字×40行)で3ページ以内。

図表がある場合は、本文とは別に1枚(裏表)にまとめる。

・上余白は30mm。下左右余白は25mm。

上余白にテーマ・サブテーマと、クラス・番号・氏名を自筆で記す

・提出期限は1月22日(土)

【その他】

前期の二つの課題(夏休みと前期末)が未提出の者は、至急提出すること。

(未提出のままだと単位を出すことはできない)